

平成30年度第1回ミニ町内文化財研修！

第一回ミニ町内文化財研修は、5月30日(水)に奉仕作業の「糸姫の栃」と「お祓いの栃」の清掃作業と併行して行った。参加者は9名。当日は、奉仕作業後、記念写真を撮ったあとに、高鷲の文化財でも見たことのない珍しい天然記念物を見て、感謝の言葉を企画された奉仕委員長でもある西脇清美副会長にかけた。



『糸姫の栃』の前



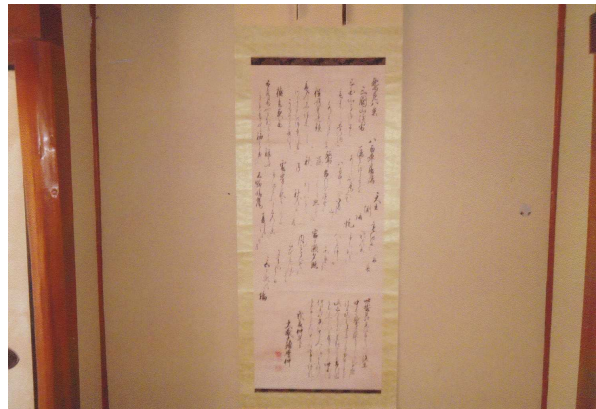
『お祓いの栃』の前で

第2回ミニ町内文化財研修！

第二回ミニ町内文化財研修は、9月6日(木)に往明寺所有の「鷲見八景」掛け軸と境内にある横田代助の「墓碑」見学と説明を受けた。参加者は16名。



高鷲町中洞にある往明寺



「鷲見八景」の掛け軸

当日は曇天であったが、月曜日から火曜日に掛けての台風21号の風暴雨の被害が村内いたるところであり、高鷲村内は停電であったが、多くの会員が集合時間の5分前までに集まった。

最初、鷲見尚武副会長の挨拶の後、仲谷俊昭住職からの往明寺の沿革や「鷲見八景」の掛け軸についての説明があった。往明寺は、「高鷲村史」のよると次のように書いたある。

「鷺見忠左衛門は往明寺から出ている。鷺見伝右衛門文書並びに寺伝によると往明寺の祖は紺屋金兵衛と言って越前国大野郡阿久の鉾山が繁昌していた頃（豊臣時代）かなやま紺屋を営んでいた人である。」とある。次に、郡上市重要文化財である往明寺の「鷺見八景の詠歌」の解説が仲谷住職からあった。これは、文化年間に富田新田を開墾した鷺見忠左衛門保隆の詠歌八首を大蔵大輔実仲が書き写したものと伝えられ、近江八景になぞらて高鷺村の風景を詠んだものだそうだ。書写の日付は戊辰仲冬日とあり、文化5（1809）年にあたる。その八首は次のとおりである。

- 三国山残雪
三国山高峯の雪も春来ては 井の洞川の水まさりけり
- 往明寺の晩鐘
春の日や行き来の道もあきらけき み寺の暮の鐘ぞさやけき
- 植松原の夜雨
五月雨や日数ふるよは誰もこの うえ松原に袖くたらし
- 八百草落雁
雁鳴きて寒きあしたや色かえん 八百草野べの四方の山々
- 鷺ヶ岳秋月
布引の広野にみちて照るかげは 鷺の高ねの秋の夜の月
- 上野晴嵐
雲きりも夜半の嵐にふきはれて 上野が原の夏の夜の月
- 天王淵帰帆
寒き日も神の恵みのふちなれば 人を渡して帰る舟長
- 宮ヶ瀬の夕照
風寒み冬の山本木の間より 夕日ぞ渡る宮ヶ瀬の橋

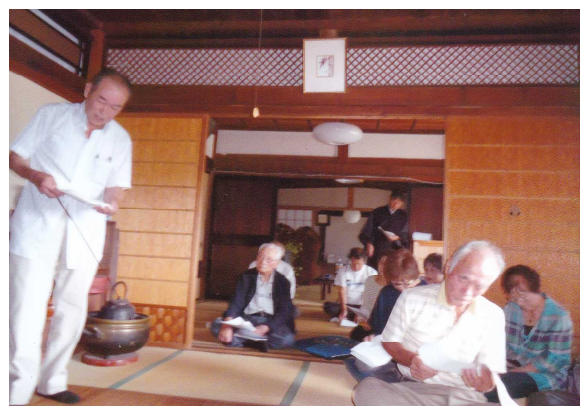
その後、鷺見副会長から往明寺にある青山藩時代の中切口番所の役人であった横田代助の顕彰碑の文言について説明があり、中谷常夫氏から預かった下記の文章を元に会員から「アーデモナイ、コーデモナイ」という議論が続いた。

横田代助墓碑文

「留霊心常世身作一堆山 奉仕神籬道■天地間
丹州宮津産高月清然信士 横田代助晴英墓 寛政二 戊年十月十六日」
■は文字が不明



往明寺の横田代助墓碑



会員に解説する鷺見尚武副会長

会員は、市文化財について各自のいろいろな見解を述べて、議論をし、有意義な一日を過ごした。そして、研修は午前中で終わった。

最後に、11月8／9日の県外宿泊研修旅行に参加しよう！